

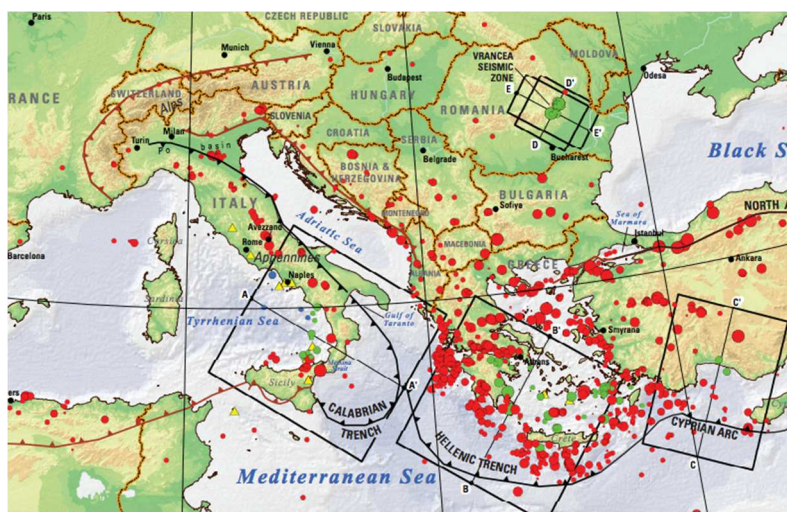


DuMA ニュースレター

2017年1月23日

1月18日、イタリアで中規模地震が発生しました

昨年夏以降、イタリア半島中軸部で地震が続いて発生しています。ヨーロッパではイタリアはギリシャと並び地震国・火山国である事はご存知の方も多いと思います。



赤い点が過去の地震の震源。イタリアでは中軸部で被害地震がこれまでも発生してきた

今回の地震はヨーロッパを襲う寒波が続く中で、積雪の多い地域で発生しました。被害のあったホテルは地震の後のなだれのため、そこに避難していた人が被災している状況のようです。



上空からの様子



夏のホテル外観 (いずれもイタリアのTVニュースから)

イタリアの地震については、まだ被害の全容が報道されていない状況が続いています。このような状況は最近では、2011年3月12日(東日本大震災の翌日)に長野県栄村で発生した地震と極めて似た状況です。この地震は東日本大震災により誘発された地震ですが、当時はほとんど報道されませんでした。それはもちろん東日本大震災の被害が余りに大きかった事がありますが、もう一つの理由が山間の積雪地域で発生したという事です。積雪地域では中規模の地震でも、雪の重みにより、建物被害が拡大する事がよくあります。さらに上空から被害状況を確認しづらく、現地に到達しづらいという問題もあります。

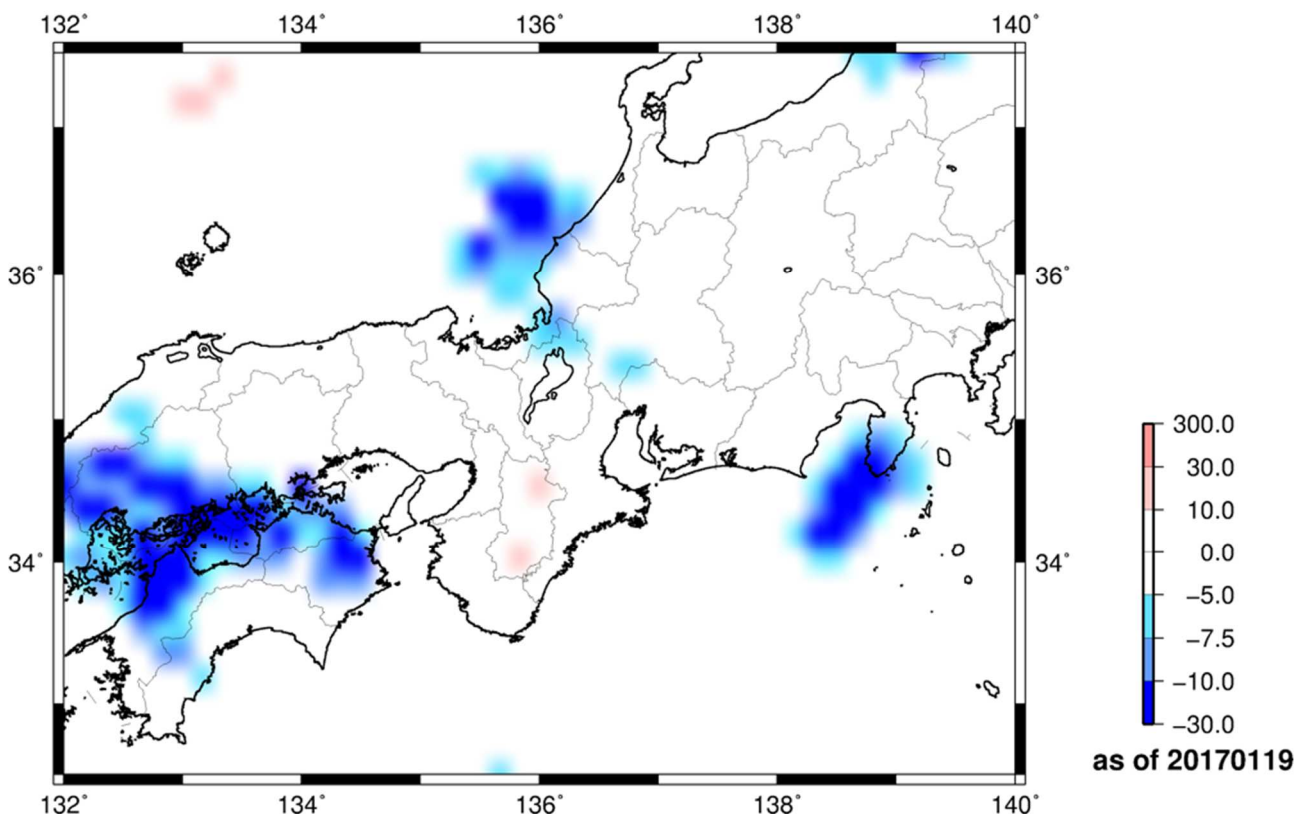
また積雪期ではありませんが、2004年の新潟県中越地震のように、孤立する集落が山岳地帯では多く出る事があります。我々は最悪の時期に地震が発生する事も想定していかなくてはならないと思います。



東海地方以西の地下天気図®

今回の地下天気図は2000年以降の16年間という長期間の地震データを用いた地下天気図です。先週のニュースレターでも触れましたが、糸魚川-静岡構造線（フォッサマグナ）より東側の地域（たとえば東京など）は、東日本大震災により、地震活動の様相が大きく変化してしまいました。このため今回掲載するような長期間のデータを用いた地下天気図の精度はそれほど高くないと考えられます。従って東京を含む東日本の解析では、2011年4月以降のデータだけを使ってDuMAでは解析を行っています。

下の地下天気図は今年1月19日時点のものです。中部・関西・中国・四国地方を対象とした解析となります。図中の青い所が通常より地震活動が低下している地域で“異常”と考えられる地域です。過去の経験則では、地震は異常が消失（青い所が消えてから）してから発生する場合がほとんどで、さらに地震は異常の中心より、周辺部ないしその少し外側で発生するケースが多く知られています。



次のページに40日前（昨年12月9日）とさらにそのおよそ4ヶ月前の地下天気図を掲載いたします。昨年12月の段階とは、異常のパターンに大きな変化は無い事がわかります。

昨年8月1日と比べますと、中国・四国地方の異常が継続し、さらに大きくなっているのがわかります。また日本海（福井県および石川県沖）の異常が新たに出現している事がわかります。

